

## 政策評価調書(27年度実績)

政策名	生涯にわたる力と意欲を高める「教育県大分」の創造	政策コード	Ⅲ-1	関係部局名	教育庁、企画振興部、福祉保健部、生活環境部、商工労働部、警察本部
-----	--------------------------	-------	-----	-------	----------------------------------

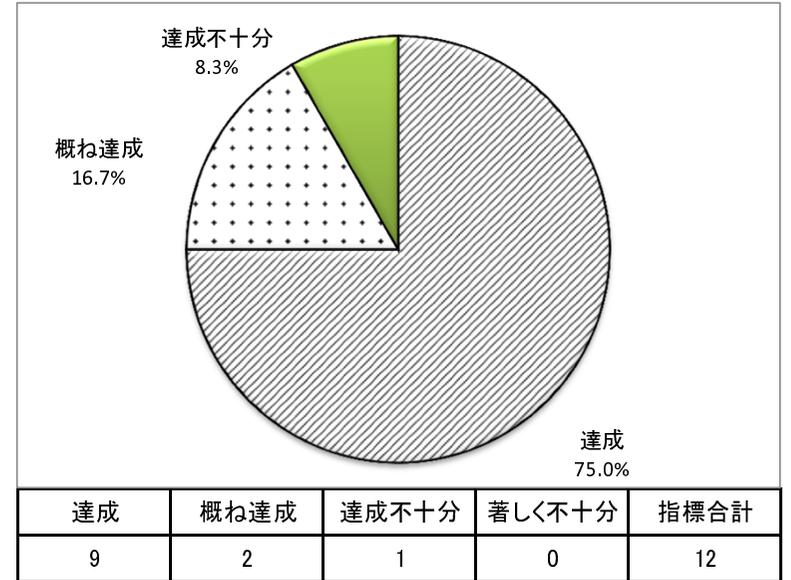
### 【Ⅰ. 政策の概要】

未来を切り拓く力と意欲を身に付けさせる教育の推進や、世界に通用する「グローバル人材」の育成、いじめ・不登校対策の充実・強化、学校・家庭・地域との協働など学校教育の充実と生涯を通じた学びを支援するとともに、青少年の健全育成や多様な行政課題の解決に向けた県内大学との連携などを進める。

### 【Ⅲ. 政策を構成する施策の評価結果】

	施策名	指標評価	総合評価
1	子どもの力と意欲を伸ばす学校教育の推進	達成	A
2	グローバル社会を生きるために必要な「総合力」の育成	達成不十分	B
3	安全・安心な教育環境の確保	概ね達成	B
4	信頼される学校づくりの推進	達成	A
5	「知(地)の拠点」としての大学等との連携	達成	A
6	青少年の健全育成	達成	A
7	変化の激しい時代を生き抜く生涯を通じた学びの支援	達成	A

### 【Ⅱ. 構成施策の目標指標の達成状況】



### 【Ⅴ. 政策を取り巻く社会経済情勢・今後の動向】

変化の激しい時代を生きる全ての子どもたちに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学習意欲」の三要素(学力の三要素)をバランスよく身につけさせることが重要である。児童生徒の学力は、習熟の程度に応じた指導の充実や学びに向かう力を育成する教育活動の充実等が図られたことにより、小・中学校ともにほぼ目標値を達成した。今後も取り組みの継続・強化が必要である。児童生徒の体力については、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、体力合計点による全国順位が小・中学校ともに過去最高の結果となった。今後も体力向上に資するため、学校・家庭生活を通じた運動の習慣化・日常化が必要である。時代の変化を見据え、今後の教育展開として、ICTの積極的活用を通じた情報活用能力の育成や選挙権年齢の引き下げを踏まえた主権者教育などが求められる。

グローバル社会を生きるために必要な「総合力」を育成するためには、子どもの海外への挑戦意欲を高めるとともに、グローバルに活躍する人材に触れる機会を充実させることが必要である。  
SNSの普及に伴い、「ネットいじめ」が問題化しているため、「いじめ防止基本方針」に基づき、学校や関係機関・団体が連携し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応の徹底が必要である。

今後10年間で教職員の約半数が定年退職を迎えるため、「教育県大分」を担う人材の確保・育成が必要である。  
青少年のSNS利用に関連する事件や、ネット上による誹謗中傷などの問題も指摘されていることから、各種機会を利用して小・中・高等学校を訪問し、児童生徒や保護者を対象にネットや携帯電話等の適正な利用方法、危険性、フィルタリングの重要性などを啓発し、ネット犯罪・被害防止のための広報・啓発活動が必要である。  
県民の学習ニーズが多様化・高度化していることから、ライフステージに応じた多様な学習機会の提供が必要である。

### 【Ⅳ. 評価が著しく不十分となった指標】

指標名	達成率
該当なし	—